

(1) 目指すべき将来像

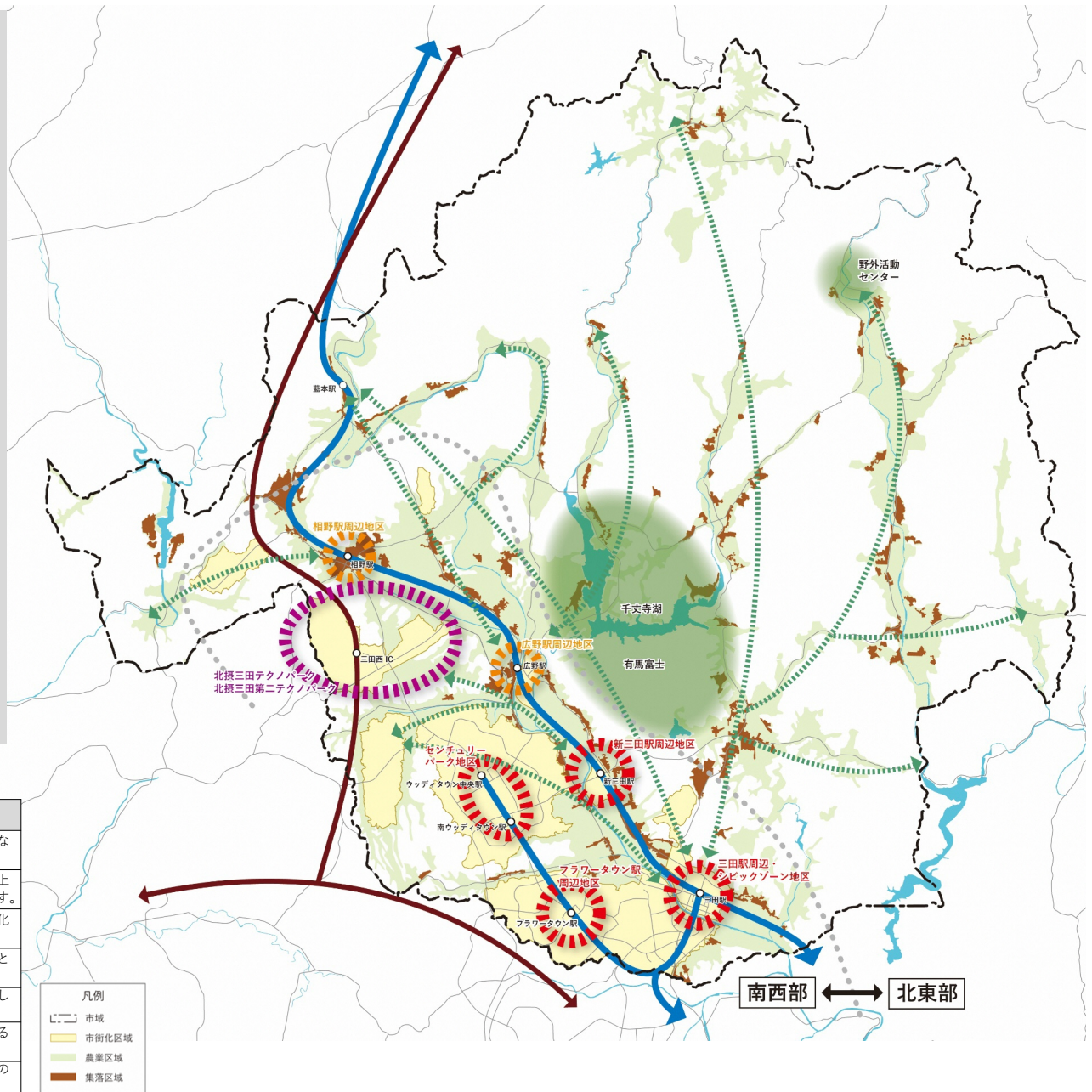
本市の都市は、先人から引き継がれてきた三田の財産である、緑豊かな里山風景と美しい農村集落が共生している「北東部」と、三田駅を中心とした商業、業務等の都市機能が集積する既成市街地や、ニュータウンとして発展してきた計画的市街地※等を有する「南西部」の2つの区域から構成されており、鉄道駅を中心に都市機能の誘導を図り、市街地外縁では、緑豊かな里山環境を保全することにより、都市と農村が調和した魅力あるまちづくりを進めてきました。

しかしながら、今後、人口減少、少子高齢化が急激に進行していくなか、市街地の低密度化、農村集落の衰退が予測されることから、都市機能及び地域コミュニティの維持、まちの賑わいと活力の創造に向けた土地利用を図っていく必要があります。

このことから、将来にわたり「人口減少にも負けないまちづくり」を推進していくため、既に都市機能が集積している「南西部」においては、鉄道駅周辺を拠点として市街地の形成を維持しつつ、「北東部」においては、農村集落の維持、里山環境の保全を図り、生活に必要な利便施設の誘導を促すとともに、鉄道駅などへのアクセス機能の連携性を確保することで、都市機能の集約と公共交通が連携した集約型都市構造※を構築していきます。

そして、都市近郊に位置しながら、私たちの暮らしに様々な恵みと安らぎを与える緑豊かな里山風景と都市としての利便性、快適性をあわせ持つ、三田ならではのまちの強みを最大限活かしながら、それぞれの地域とひとが相互につながり、共生することにより、賑わいと活力を創造し、魅力あふれる都市へと好循環する土地利用を推進していきます。

【持続可能なまちのイメージ(都市構造図)】



拠点・ゾーン・交通軸			
拠点	都市拠点		都市の中心核として商業・業務・居住機能などの複合的な機能の立地を誘導します。
	地域拠点		駅利用者や周辺地域の居住者の利便性の向上を図るため生活利便施設の立地を誘導します。
	産業拠点		広域アクセス性を活かし、地域経済の活性化に資する産業を振興します。
ゾーン	観光交流ゾーン		豊かな里山資源を活かし、地域の活力向上と新たな魅力を創出します。
	基幹交通軸(鉄道)		拠点を結ぶとともに、交通結節機能を向上します。
交通軸	補完交通軸(路線バス)		北東部と南西部を結び、基幹交通を補完することで移動手段の確保を図ります。
	広域展開軸(高速道路)		市外への人や物流の移動を支え、地域経済の循環を促進します。

